

## 主体的な「学び合い」のある授業の実現を目指して

～自分の考えをもち、対話することで学びを深める児童の育成～

### (2)主題設定の理由

#### ①学校教育目標から

本校の教育目標は「あいさつ・やさしさ・やる気がいっぱい 学び合って成長する杉上っ子」である。具体的には、あいさつや思いやりのある言葉が交わされ、児童一人一人が主体的に様々な人と学び合い、成長していく教育活動を推進していくことである。

○「学び合い」の学校文化を築き、学び合いを通して児童・教師が成長する学校

○進んで挨拶ができ、互いを思いやる雰囲気が定着した学校

○家庭や地域との連携を深め、安全・安心に過ごせる学校

このような視点をふまえ、児童が安心して学ぶことができる学習環境を整え、対話のある授業実践をしていけば、子どもたちの主体的な「学び合い」が生まれ、それが本校の学校目標の具現化につながるであろう。

#### ②昨年度の取り組みから

本校は2年前から、研究テーマを「一人一人がわかった・できたと実感できる学習の創造」、サブテーマを「学び合い」のある授業を通して」と設定して幅広い教科の研究を進めてきた。

昨年度は「主体的な「学び合い」のある授業の実現を目指して」という研究主題を掲げ、対話のある国語の授業づくりに焦点を当て授業改善に取り組んできた。職員間の「学び合い」についての定義を共通理解し、「問いの持たせ方、対話、振り返り」など視点をもった授業実践を通してたくさんの学びがあった。また、昨年度より全校でグループアプローチ「すぎっこタイム」を実践した。子どもたちが様々な友達と関わる場を設定し、うなずきを大切にしながら話を聞き合うことで、互いの良さを知り、よりよい関係を築くことができるようになってきた。さらに、授業の中ですぎっこタイムの学びを生かした対話を取り入れることで、安心して自分の考えを伝え、友達の話聴こうとする姿が見られるようになってきた。

しかし、自分の考えを伝え、相手の考えを受け止めるまでに止まってしまい、学習課題に対して考えを深めるまでには至っていない。

また、私たち職員間でも、授業を行うにあたり、子どもが夢中になるような課題の設定、子ども同士の考えをつなぐための問い返しや授業の進め方など、どのように行うとよいか未だに漠然としている部分も多い。

#### ③児童の実態から

本校の子どもは、課題に対して一生懸命に取り組む児童が多い。自己解決の時間には自分なりの考えを少しでも表現しようとしているが、中には自分の考えを書き表すことや友達に伝えることに苦手意識をもっている子どももいる。また、学力調査の結果から、年々偏差値が向上しつつあるものの、全国標準には達していない学年と教科がある。

### (3)研究主題について

本時の課題を解決するとき、子ども達は既習の知識・技能や前時の学習を活用して解決しようとする。その際、自分なりの考えを少しでもまとめて、友達に表現することは子どもたちの「学び合い」につながると考える。「学び合い」とは、子どもが自分の考えをまとめて表現したり、それを友だちと交流したりすることで自ら学んでいくことであり、また、友達のことを聞いて更に学んでいくことである。

このように、授業中のやり取りの中やふり返りの場面で、お互いの考えを交流することを通して、子ども自身が学びとることになる。教師が、子ども達の主体的な対話が生まれるような授業の組み立てをしていくことで、「学び合い」のある授業が実現すると考える。

#### (4) 研究の仮説

教師の授業の組み立ての中で、子ども自身が自分なりの考えをもち、内容や形態を工夫した対話的な学びを位置付けることで、主体的に学びを深める子どもが育つであろう。

#### (5) 研究の視点

##### ① 視点1【課題設定の工夫】：めあて

- ・学習意欲や、必要感・切実感を高める単元構成や本時のめあての工夫

##### ② 視点2【「学び合い」の工夫】：対話

- ・課題の解決に向かう「学び合い」につながる手立ての工夫
- ・対話することで新たな気づきをもつための工夫

##### ③ 視点3【ふり返りの工夫】：評価

- ・めあてに対する達成度を把握するための評価の工夫
- ・達成感を味わうための振り返りの工夫

#### (6) 研究の方法及び内容

① 方法 各学年部を中心とした研究授業（大研）や検証授業（小研）の公開授業を行い、研修を深める。

##### ② 内容

- ア 授業
  - ・学びわくわく熊本市の授業づくりの3つのポイント（めあて、対話、ふり返り）を意識した授業づくりを行う
  - ・ICTを効果的に活用する
- イ 日常生活
  - ・定期的にグループアプローチ「すぎっこタイム」を行うことで自分の考えを表現する楽しさ、相手に聴いてもらう安心感を実感できるようにする
  - ・自己決定、自己存在感、共感的人間関係など生徒指導の3機能を意識した学級づくりを行う